

平成22年第2回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成22年6月7日
大仙市長 栗林次美

本日、平成22年第2回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

今次定例会でご審議をお願いいたします案件は、人事案2件、条例案13件、単行案6件、補正予算8件の合計29件のほか、ロータリー除雪車の取得並びに中通線新設工事請負契約に係る単行案を準備が整い次第、追加提案する予定であります。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

それでは、この場をお借りいたしまして主要事業の進捗状況並びに諸般の状況についてご報告申し上げたいと存じますが、その前に、大仙市土地開発公社の解散についてご説明させていただきます。

大仙市土地開発公社は、昭和48年に「公有地の拡大の推進に関する法律」に基づき、旧大曲市が全額出資のもとに設立し、現在に至っております。

この間、都市基盤整備に係る公有地の先行取得及び宅地開発事業等を展開し、大仙市発展の一翼を担う役割を果たしてまいりました。

しかしながら、昨今の社会情勢から、公有地の先行取得の有用性も低くなっていることや、今後におきましても、宅地造成等の具体的な事業展開の予定がないことなどから、公社としての社会的役割並びに所期の目的は達成したものであると思われまます。

このようなことから、公社が存続する意義は極めて薄いものと判断し、公社解散に向けた手続きを進めたいと考えております。

去る5月19日に開かれた公社理事会において、理事の皆様の内諾をいただいたことから、この後、議会と解散に向けてご協議をさせていただきたいと存じます。

具体的なスケジュールではありますが、現在、公社において保有土地の不動産鑑定を行っておりますので、この結果を踏まえ、公社保有土地の買い戻しに係る予算の補正を9月定例会に上程いたしたいと考えており、補正予算議決後、公社における金融機関からの借入金の返済及び未収金の精算等を進め、11月を目途に公社理事会において解散の同意を得る予定としております。

また、公社の解散については、市議会の議決を必要とすることから、12月定例会に議案を上程し、議決をいただきたいと考えております。

その後、県に対し公社解散認可申請を行い、清算人登記及び2カ月間の債権申立公告等を経て、来年6月には清算登記を完了し、県への解散登記終了報告後、清算結了会議を終えて解散手続は終了することとなります。

大仙市土地開発公社の解散につきましては、今後議会との協議を進めていくこととなりますが、議員各位のご理解を賜りますようお願いいたします。

なお、財団法人大仙市開発公社につきましても、土地開発公社の解散と併せて解散の手続きを進めることとしておりますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

次に、現在連日のように報道されております「口蹄疫」問題ではありますが、本市と有縁交流を進めております宮崎市佐土原地域においても甚大な被害状況となっていることから、本市としても義援金を募り、同地域の被災農家の皆様に対し支援してまいりたいと存じます。

それでは、各部局ごとの主要事業の進捗状況等についてご報告させていただきます。

はじめに、総務部関係について申し上げます。

防災につきましては、5月18・19日の両日、神奈川県座間市との災害時応援協定に基づく「災害対策連絡会議」を本市で開催し、座間市訪問団と災害対策等について広く意見交換を行っております。当日の会議では、座間市の要望により、災害発生時における参考事例として全国花火競技大会での観客誘導、雑踏警備への取り組みなどをご紹介したところであります。

また、昨日には、大川西根蛭川地区において県と市の協同により、4月1日に結成された自主防災会を対象に土砂災害時における避難訓練や伝達訓練などの防災講習会を実施しております。

なお、平成22年度秋田県総合防災訓練については、10月18日に大曲地域の市街地一円と雄物川河川敷を会場に開催されることが決定されております。

次に、企画部関係についてであります。

秋田大学との連携につきましては、地域活性化に向けこれまで以上に大学との連携強化が必要との認識から、5月26日に「包括的な連携協定」を締結いたしました。当日は、協定締結を記念し秋田大学の吉村学長による講演会を開催し、市内の企業関係者や高校生を中心に約450人の市民に参加いただき、盛会裡に終えております。

桜守プロジェクト事業につきましては、八乙女公園の桜について、昨年春の開花状況が芳しくなかったことから、今春の開花を心配しておりましたが、地域のボランティア団体の保全活動などにより、本年度は素晴らしい花が咲きました。今後も、病気の駆除や樹木の管理を続けるとともに、県の事業も取り入れながら、公園全体の整備を進めていきたいと考えております。

また、市内全体を対象に、本年の3月には国の経済危機対策臨時交付金を活用し、市内8カ所でテング巢病等の除去作業を行っておりますが、作業にあたっては、地域住民の皆さんからも剪定した枝の片付け等でご参加をいただいております。今後もこうした協働の輪を広げ、桜の保護及び育成に努めてまいりたいと存じます。

なお、「大仙市さくらマップ」をインターネット上で公開したところ、約1,900件のアクセスをいただいております。今後も市民のご協力をいただきながら、開花時期や写真など、掲載情報の充実を図ってまいります。

「広報だいせん」につきましては、秋田県広報コンクールで第1位となり、日本広報協会が主催する平成22年度全国広報コンクールに応募していましたが、先般、写真（一枚）部門において入選いたしました。今後とも市民に親しまれる広報紙づくりを目指してまいりたいと存じます。

仙北組合総合病院の改築に係る市街地再開発事業につきましては、去る5月13日に大曲通町地区市街地再開発準備組合の設立総会を開催し、組合員9名で発足したところであります。

準備組合では、今後、本年秋頃に予定している都市計画決定に向け、施設基本計画・事業採算計画・権利変換計画・補償計画などの素案を検討立案し、組合員の合意形成を図る作業を進めていくこととしております。

また、都市計画決定後は、基本設計・再開発事業計画・権利変換基準案・補償基準案について組合員の合意を図るとともに、来年のできるだけ早い時期で本組合の設立認可及び再開発事業認可に向けて協議・調整していくことになります。

なお、中心市街地活性化対策事業につきましては、この市街地再開発事業と並行して進めており、内閣府、関係省庁及び関係団体との調整を図りながら、「大仙市中心市街地活性化基本計画」の早期策定に向け努力してまいりたいと考えております。

地域情報通信基盤整備事業（光ケーブルの敷設）につきましては、5月6日から実施設計に着手しております。

携帯電話の不感地域解消を図る移動通信用鉄塔施設整備事業につきましては、本年4月に西仙北地域の土川太田谷地地区と大沢郷秋通地区の鉄塔整備について、秋田県から補助金の内示があり、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

国際交流につきましては、昨年度に引き続き、市内小・中学校の児童・生徒並びに幼稚園・保育園の園児と国際教養大学の留学生との交流を図ることとし、5月から7月までの第1期は、中学校2校、小学校9校、幼稚園1園、保育園2園で延べ22回の交流活動が予定されております。

友好交流都市である韓国唐津郡たんじんぐんとの交流につきましては、唐津郡機池市たんじんぐん きじし綱引き行事及び国際綱引き学術大会に招待を受け、山王丸副市長を団長に刈和野大綱引保存会関係者と市職員合わせて7名が4月8日から12日まで訪韓し、スポーツ交流などの可能性について協議するなど交流を深めてまいりました。

次に、市民生活部関係についてであります。

交通安全対策につきましては、「春の全国交通安全運動」期間中に、交通指導隊や関係機関・団体と連携し、早朝や夜間における巡回指導パトロールを実施したほか、チャイルドシートと後部座席シートベルトの着用、自転車の安全利用や飲酒運転の根絶を目指した交通安全パレードやシートベルトの着用調査などを実施しております。

また、秋田大学と協和地域の誘致企業であるエーピーアイ株式会社が共同研

究により開発した歩行環境シミュレータを全国の自治体で初めて導入しており、今後、各総合支所への巡回や地区交通安全会などへの出前講習を通じて、多くの市民に体験していただくことにより交通安全意識の向上を図ってまいります。

消防につきましては、4月4日から11日までの「春の火災予防運動週間」に各支団において防災訓練や駆け付け訓練を実施しております。

また、昨日、雄物川河川敷において、消防技術及び水防技術の向上と体制の強化を図るため、消防団による消防・水防講習会が開催されております。

女性消防団員及び消防団協力員につきましては、平成23年度からの採用に向け7月からの募集開始を予定しております。

国民健康保険事業につきましては、平成21年度決算見込みが、実質収支では約2億5,200万円の黒字となり、実質単年度収支でも約2億7,500万円の黒字決算となる見込みであります。これは、一般会計から国保会計へ2億5,000万円の基準外繰り入れを実施したことによるものであり、依然として国保事業は極めて厳しい財政状況にあります。

市といたしましては、昨年3月に策定した「大仙市国民健康保険事業運営安定化計画」に基づき、計画期間中は毎年度一般会計からの支援を実施することとしているほか、本年度の国民健康保険税については、税率を改正しないこととしております。

なお、同事業は、保険者の財政規模が小さいため不安定であること、被保険者の年齢構成や所得分布の差異が大きいこと、医療機関の偏在によって医療給付費に格差が生じていることなどの構造的な問題を抱えており、保険給付は全国共通であるにもかかわらず、保険料は市町村ごとに大きく異なり、被保険者には不公平感があります。

こうした現状を改善し、今後の医療保険制度として県単位による広域化を推進するため、秋田県市長会に「秋田県国民健康保険事業広域化研究会」が設置されております。

ごみの減量化対策につきましては、平成21年度の家ごみ排出量のうち、燃やせるごみが1万6,432tで前年度と比較して526t、3.1%の減となっております。また、燃やせないごみは819tで前年度に比べ

53 t、6.1%の減とごみの減量化が図られております。

資源ごみである古紙・ペットボトル・びん・缶については、3,394 tが回収されたほか、再資源化の推進として取り組んでいる発泡スチロールは940 kg、食品トレイは1,070 kgの回収となっております。

循環型社会構築を目的とした家庭系廃食用油の回収につきましては、全地域で協議会が設立され、回収が始まっており、回収された使用済み天ぷら油は、バイオディーゼル燃料（BDF）に精製され、軽油の代替燃料としてディーゼル車に使用されております。

また、環境美化活動の一環として4月19日に実施した「全市一斉クリーンアップ」には、昨年より多い約1万1,000人の市民の方々からの参加をいただき、約14 tのごみを回収しております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

子育て支援につきましては、従来の児童手当に代わり、義務教育修了までの児童を養育する保護者に所得制限を設けずに子ども手当を支給することになりますが、児童手当の受給者については、みなし認定として新たな申請手続きは必要ないものの、中学校2・3年生と所得制限により児童手当が非該当であった世帯は申請手続きが必要なことから、4月23日から夜間、土曜日、日曜日にも申請窓口を設置して申請を受け付けており、6月15日の支給に向けて作業を進めております。

なお、9月末日までに申請があれば、4月からの満額支給となりますので、申請漏れがないよう広報や通知等による周知に努めてまいります。

放課後児童クラブにつきましては、4月1日に、新たに内小友小学校と角間川小学校の余裕教室を活用し設置しており、これにより市全体では、18カ所446名の登録となっております。

障がい者福祉につきましては、社会福祉法人「あけとおり会」が、旧かみおか保育園跡地に障がい者支援施設を建設する予定であり、5月9日に第2回目の地域住民に対する説明会が開催されております。

社会福祉施設の法人化につきましては、本年度から特別養護老人ホーム峰山荘を社会福祉法人「大仙ふくし会」に、また、みつば保育園と淀川保育園を「大

空大仙」に移譲いたしました。順調に運営されていると伺っております。

次に、農林商工部関係についてであります。

水田の春作業につきましては、4月中旬から下旬にかけての低温や不順な天候により、水田の春作業の遅れが懸念されましたが、耕起作業は5月9日とほぼ平年並みに終了しており、田植え作業も5月29日には終期となっております。また、直播栽培の播種作業は、5月10日から始まり、5月19日に終了しております。

米の生産調整につきましては、22年産米の生産数量目標として配分された数量は、前年より1,699t少ない6万7,255t、112万俵余りで、5月下旬までに生産調整実施計画を取りまとめ、6月上旬から全市一斉に転作現地確認に入っております。

また、食料自給率向上を目指した戸別所得補償制度の本格実施に向け、本年度に行う戸別所得補償モデル対策については、米に対する補てんと大豆・麦・飼料作物などの転作作物に対して助成を行うもので、4月から国への加入申込受付が始まっており、できるだけ多くの農業者が加入し恩恵を受けることができるよう支援してまいります。

4年目となる「農地・水・環境保全向上対策」につきましては、現在123の組織が平成24年度以降の体制整備構想案に基づく活動を展開しており、引き続き、持続可能な農村環境向上活動となるよう支援してまいります。

市営放牧場の利用状況につきましては、神岡、西仙北及び協和地域の3カ所において、市外からの利用21頭を含め和牛124頭、乳牛7頭の合計131頭を放牧しております。

また、豊かな水と緑を育てるため、「秋田県水と緑の森づくり税」事業を活用し、しんこうこんこうりんか針広混交林化整備事業やふれあいの森整備支援事業等、環境や公益性を重視した森づくりに取り組んでおります。

本市は、合併時から東部及び西部の二つの農業委員会を設置しておりますが、平成23年7月の公選による農業委員の任期満了を迎えるに当たり、簡素で機能的な組織に再編することにより、農業施策の効率的な推進、農地情報の共有化や手続きの一元化による経費節減、より質の高いサービスの提供のため、

二つの農業委員会を統合いたしたいと考えております。

既に、農業委員会においては、昨年6月に統合に向けた協議会を立ち上げ協議を行っており、先般、両農業委員会の総意として、統合に関する要望書をいただいたところであります。来年7月を目途に統合する方向で検討を進めており、本年9月の市議会定例会に農業委員会の統合に係る定数条例案等を上程いたしたいと考えております。

本年3月卒業の高校生の就職状況につきましては、ハローワーク大曲管内の4月末現在における就職希望者321人に対し、就職者数は312人で、97.2%の就職率となっており、ここ数年の就職率に達しております。このうち県内就職者は169人で全就職者数の54.2%、県外就職者は143人で45.8%となっており、県内就職率については年々減少傾向にあります。

若年者の就職支援と地元定着を図ることを目的に、4月22日から開設している高校・短大・大学などの新規卒業者と未就職の若年者に対する就職支援講座を、6月までの3カ月間に10回開講いたしておりますが、20名の若者が早期の就職を目指して受講しております。今後も若年者の安定雇用を図るための取り組みを積極的に実施してまいりたいと考えております。

観光振興につきましては、本年は「大曲の花火」が誕生してから100年目を迎えることから、「大曲の花火100年フェスタ実行委員会」を組織していただき、「感謝、祝い、未来」をコンセプトに、1年を通じて100年の節目をお祝いすることとしております。

「大曲の花火100年花火博覧会2010」と冠した本事業では、8月21日に大曲市民会館を会場に「大曲の花火100周年記念フォーラム」を開催する予定であり、仕掛け花火協賛企業や大会運営に貢献されている企業・団体等に感謝状を贈呈するほか、「大曲の花火」100年の歴史を映像等により市民にわかりやすく解説する「大曲の花火100周年ヒストリアム」を実施する計画となっております。

また、8月28日の大会本番においては、昼花火のスターメイン、感謝の花火打上げ、もう一つの大会提供「賛歌」の打上げが企画されているところであります。本事業の実施については、市といたしましても100年の節目を飾るにふさわしい大会となるよう努力してまいりたいと考えております。

次に、建設部関係についてであります。

道路整備事業につきましては、平成21年度2月補正により、地方特定道路整備事業宮林線改良工事を前倒しで発注しております。主な工種は下層路盤工の築造などであり、進捗状況は約70%となっております。

また、3月補正において繰越明許費を設定した地方道路交付金事業黒森山線は、工事が概ね完了しており、工事検査を経て7月中旬には供用を開始する予定であります。

同じく繰越明許費を設定したきめ細かな臨時交付金事業の道路・橋りょう費につきましては、全72カ所のうち、24カ所の工事を発注済みであり、残り48カ所についても、発注に向け作業を進めております。

西仙北インターチェンジのETC専用スマートインターチェンジ整備事業につきましては、東日本高速道路株式会社においてETC機器の製作を発注済みであり、現場への設置工事は来年1月下旬の予定と伺っております。関連する市発注工事は、ゲートより一般道側の舗装工事、防護柵及び標識の設置などとなりますが、現在発注に向け準備を進めております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業につきましては、仮換地指定に伴う建物移転や借家人補償などを行う予定であり、現在、大曲通町地区及び大花町地区の本年度移転対象物件の各権利者と交渉中であります。

また、都市計画道路中通線の整備につきましては、昨年度に完成しているJR奥羽本線中通り道橋に係る大曲黒瀬町側、延長80mの擁壁^{ようへき}築造工事の請負契約の締結に関し、今次定例会に単行案を追加提案する予定であります。

大仙市都市計画区域の拡大につきましては、平成23年度の区域決定を目指し県と協議、調整を進めており、国道13号大曲バイパス沿線の特定用途制限地域の設定については、早期に決定できるよう進めてまいります。

本年度をもって事業完了する見込みの大曲駅周辺地区のまちづくり交付金事業につきましては、福田西線の道路改良工事が5月上旬に発注済みであり、舗装工事については9月中旬の発注を予定しているほか、本年12月に供用開始予定の「しあわせ公園」については、5月下旬に発注しております。また、平成21年度から2カ年の継続事業として建設を進めている地域交流センターに

については、現在建築工事及び外構工事を施工中であり、5月末現在の進捗率は53%となっております。

本年4月から限定特定行政庁として業務を開始いたしました建築確認審査業務につきましては、5月末現在の申請件数は62件で、市の全建築確認申請件数85件のうち73%を取り扱っております。

また、大仙市住宅リフォーム支援事業につきましては、多くの市民の皆様から申請をいただいております、5月末現在の件数は156件、補助金額にして約3,300万円、その対象工事費は約5億700万円となっており、地域の経済対策として大きく貢献しているものと考えております。

公園事業関連につきましては、協和地域「高見が丘公園」の開設条件が整ったことから、一般公園として規定するため、今次定例会に関連条例案を上程しております。

公共下水道事業につきましては、継続事業となっている大曲、神岡、中仙及び南外の4地域の整備を順次発注する予定であります。

なお、平成21年度末の公共下水道の整備済み面積は1,271haで、整備率53.1%、污水管渠延長248km、普及率は35.9%であり、水洗化戸数は7,583戸、水洗化率は61.8%となっております。

農業集落排水事業につきましては、大曲地域角間川地区及び太田地域三本扇地区において、順次発注の予定であります。

次に、国、県関係工事についてであります。

国道13号関連の神宮寺バイパス事業につきましては、秋頃までに大坪交差点から現道に接続する北檜岡嶋地区までの2.2kmについて供用開始を予定しており、終点側の道の駅「かみおか」付近の用地買収についても引き続き推進する予定と伺っております。

交通安全施設等整備事業の「北檜岡歩道」の整備につきましては、昨年度の下り線側の整備に引き続き、本年度は上り線側の工事を実施していく予定と伺っております。

雄物川中流部の河川改修事業につきましては、洪水被害の軽減を目的とした樋門新設及び築堤等の改修工事を昨年度に引き続き実施し、新規に南外地域西

板戸地区の改修事業に着手する予定と伺っております。

大曲橋架け替え事業につきましては、昨年度に引き続き、橋りょう上部工工事を行う予定と伺っております。

歩道整備事業につきましては、国道105号四ツ屋地区の整備を引き続き推進するほか、主要地方道角館六郷線太田地域の伊勢堂地区の整備のための調査・測量を実施する予定と伺っております。

主要地方道湯沢雄物川大曲線角間川工区の道路改良事業につきましては、8月中旬には供用できる見込みであり、南外地域小出地区の主要地方道神岡南外東由利線と西仙北地域杉沢地区の一般県道土川中仙線の道路拡幅事業については、用地補償及び改良舗装工事をそれぞれ実施する予定と伺っております。

次に、水道局関係についてであります。

上水道事業につきましては、秋田県が施行する大曲橋架け替え事業に伴う水道施設整備事業について、管理棟及び車庫棟建築工事と工事監理業務委託並びに付帯する電気設備工事、機械設備工事を6月中旬に発注する予定となっております。

また、内小友字仙北屋地区の配水管布設工事並びに大曲白金町地区、大曲福見町地区及び下深井字相布地区の配水管改良工事を発注し、大曲白金町地区及び大曲福見町地区の2件が完了しております。

簡易水道事業につきましては、仙北地域の戸地谷地区簡易水道施設整備事業は、本年度が最終年度となっており、配水管布設工事について発注の準備を進めております。

また、継続費を設定している西仙北地域の大沢郷地区簡易水道施設整備事業の配水管布設工事、第2送水ポンプ場施設整備工事及び第2配水場施設整備工事の進捗に伴い、6月1日から事業に係る全世帯への給水が可能となっております。

本年7月検針分から適用となる上水道と簡易水道の水道料金の改定につきましては、5月1日号の市広報に折り込みでリーフレットを全戸に配布したところではありますが、市民の皆様からの問い合わせにお答えするため、6月16日号の広報の発行に合わせ、再度、リーフレットを配布することとしております。

また、簡易水道給水区域においては、各地域で異なる納付日等の統一を図ることとし、5月中旬に地域版の「すいどうだより」を配布したところでありませんが、さらなる周知を図るため6月下旬にも再度配布したいと考えております。

次に、教育委員会関係についてであります。

幼稚園教育につきましては、平成23年度から25年度にかけて市立6幼稚園の経営を社会福祉法人大空大仙に移譲することとしており、4月26日に移譲後の幼稚園経営のあり方や利用者に対するサービスの維持向上策について定めた基本協定を締結しております。

学校教育につきましては、5月11・12日の両日に、新規事業の「こころのプロジェクト夢の教室事業」を開催し、元サッカー日本代表の小島伸幸氏らに市内3小学校を訪問していただき、夢先生として夢を持つことの素晴らしさや努力することの大切さを子どもたちにお話しいただいております。

小学校・中学校の連携事業につきましては、中仙小学校・清水小学校・中仙中学校の「全国学力調査を活用した調査研究」、横堀小学校・仙北中学校の「外国語教育」、協和小学校・協和中学校の「職業や生き方を探る学習」、藤木小学校・角間川小学校・大曲南中学校の「環境教育」を核として、小・中学校の一層の連携・交流を推進するとともに、幼保・小・中・高校及び国際教養大学・秋田大学との連携を見据えた教育の充実を図ってまいります。

学校規模適正化の推進につきましては、学校づくり将来構想検討委員会からいただいた意見・提言を基に策定した「新しい時代の学校教育だいせんビジョン」について、地域協議会、PTAや地域の皆様に対する説明会を順次開催してきております。このうち統合の意向が高かった神岡、西仙北及び南外地域において、保護者を対象にアンケート調査を行っておりますが、いずれの地域においても、「統合を進めてもらいたい」との意見が80%以上を占めたことから、今後も議会や地域の皆様と十分協議を行い、ビジョンで示している平成24年度統合に向けて、準備を進めてまいりたいと存じます。

大曲中学校屋内体育館建設事業につきましては、第1アリーナ、第2アリーナとも基礎コンクリート打設を終え、現在、土間コンクリート打設を行っております。5月末の進捗率は約20%となっておりますが、ほぼ工程どおり順調

に進んでおり、8月頃には50%程度にまで進捗するものと予想しております。

学校耐震補強工事につきましては、本年度への繰り越し事業として、3月中に発注した南外西小学校ほか小学校1校と、中仙中学校ほか中学校3校については、5月から本格的な工事が始められております。

また、IS値0.3未満の屋内体育館を中心に優先的な発注を予定している藤木小学校ほか小学校4校と、平和中学校ほか中学校2校については、既に工事請負契約を締結済みであり、残る協和中学校についても6月中の発注を予定しております。

なお、IS値0.3以上0.7未満の大曲小学校ほか小学校6校と、仙北中学校ほか中学校4校についても、早期の完成を図るため、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

生涯学習の推進につきましては、本年4月から行政改革の一環として、大曲地区公民館の職員配置と事務事業の見直しを行い、本来の公民館業務の充実を図っております。また、各種講座、教室、スポーツ、サークル活動などを紹介する「2010・大仙市生涯学習ガイド」を5月に作成し、市内関連施設に配布し、市民の利用に供しております。

放課後子ども教室推進事業の一環として取り組んでおります子ども囲碁普及事業につきましては、囲碁フェスティバル協賛事業として、八乙女交流センターにおいて5月21日から5月23日までの3日間、小・中学生、高校生合わせて60名の参加による「囲碁合宿」を開催したところであります。

本年度で4回目を迎える「ふるさと民謡めぐり」につきましては、5月15日に大曲公演を行いました。今後、各地域ごとに順次開催してまいります。

文化財の保護・整備につきましては、池田氏庭園洋館修復工事で復元された金唐草紙が、東京都王子の紙の博物館では6月13日まで、東京家政大学博物館では6月15日まで公開されており、県内外から高い評価と関心が寄せられております。

また、同庭園の特別公開を6月5日・6日の両日開催し、県内外の多くの方々から鑑賞いただいたところであります。

なお、池田氏庭園の名称については、これまで「池田氏庭園」と「旧池田氏

（払田）庭園」の2つに区分しておりましたが、5月21日に開催された国の文化審議会において、この2つの庭園を「旧池田氏庭園」に統括する変更について、文部科学大臣に答申が出されたところであり、近日中に官報により告示される見込みとなっております。

鈴木空如の調査研究事業につきましては、東北大学名誉教授 ^{ありがよしたか} 有賀祥隆先生の指導の下に、調査成果をまとめた報告書が完成しております。今後は調査成果を広く周知し鈴木空如資料を市の貴重な文化遺産として保存するとともに、さらに詳細な調査研究を進め、鈴木空如の功績を顕彰してまいりたいと考えております。

スポーツ振興につきましては、5月18日に開催された秋田県実行委員会第2回総会において、平成23年開催予定の全国高等学校総合体育大会の新たな競技会場として、正式に大仙市ふれあい体育館が決定されたところであります。

また、第6回大仙市制施行記念駅伝競争大会が、昨日、晴天のもと男女合わせて45チームの参加により行われたところであります。

昨年度リニューアルした協和スキー場の平成21年度実績につきましては、前年度比で入り込み客数91%増、リフト収入89%増、食堂売店等収入73%増と大きく伸びております。

総合市民会館事業につきましては、6月5日に「薪能公演」が唐松能楽殿を会場に、昨日は「第22回秋田おばこ節全国大会」が大曲市民会館を会場に開催され、盛会のうちに終了しております。

総合図書館事業につきましては、本年度から「大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」がスタートしており、4カ月児健診時の「ブックスタート事業」は、保護者から好評をいただいております。

最後に、平成21年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算状況について、その概況を申し上げます。

一般会計は、実質収支で約8億6,000万円の黒字決算となる見込みであります。これは、歳入において国の地方財政対策により地方交付税が前年度を

上回ったことや、職員の給料削減等による人件費の削減を含め、歳出全体における経常経費の節減に努めたことなどが主な要因であります。

なお、実質単年度収支については、平成21年度の財政運営において、財政調整基金からの取り崩しを行わず、約6億円を積み増したことから、合併後初めて黒字決算になる見込みであり、黒字額は約6億4,000万円を見込んでおります。

特別会計では、国民健康保険事業特別会計の事業勘定が実質収支で約2億5,200万円、実質単年度収支で約2億7,500万円の黒字決算となる見込みであります。

また、同会計の診療所勘定及び歯科診療所勘定、老人保健特別会計、後期高齢者医療特別会計、学校給食事業特別会計、簡易水道事業特別会計、公共下水道事業特別会計、特定環境保全公共下水道事業特別会計、特定地域生活排水処理事業特別会計、農業集落排水事業特別会計及び各財産区特別会計についても、実質収支で黒字決算となっているほか、その他の特別会計の実質収支は、ゼロとなっております。

企業会計では、水道事業会計が収益的収支において2億400万円の純利益があり、病院事業会計の収益的収支は1,500万円の黒字決算となっております。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。招集のあいさつと諸般の報告とさせていただきます。

